

年度	2025	学科・学年	理・2
授業科目	関係法規・制度	授業方法	講義
開講学期	後期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	北村 千草	実務経験のある教員	○
実務内容	創価大学法学部法律学科卒業		
テキスト	『関係法規・制度』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師として必要な関係法規・制度を理解する 理容師法の定める行うべき業務と法の目的を学ぶ		
授業概要	法制度と衛生行政の概要の理解を図る 理容師法の役割と人や施設に関する規定、行政処分等の理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～8	理容師法	保健所の役割や理容師法の目的、理容師の義務及び管理理容師について学ぶ	
9～16	理容師法	理容所の開設や開設者の義務及び立ち入り検査、行政処分等について学ぶ	
17～24	関係法規・制度	関連法規として理容師に関するさまざまな法について学ぶ	
25～31	総まとめ	振り返り授業及び過去問対策	
30	テスト		
到達目標	理容師として必要な関係法規及び制度を理解し社会との関係を深める		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2025	学科・学年	理・2
授業科目	衛生管理	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	60時間
授業単位数	2	必修・選択区分	必修
担当者	高野 敏彰	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般（カット・パーマ・ヘアカラー等）		
テキスト	『衛生管理』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師として必要な感染症の的確な知識、技能を習得する		
	代表的な感染症の病原体、感染源、感染経路、症状、予防対策などを理解する		
授業概要	公衆衛生学、微生物学、の歴史を知り感染症の法律上の分類方法などから感染症の体系の理解を図り、理容の業務に必要な衛生管理の知識の理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～29	感染症総論	お客又は従業者を通じて伝播する危険性のある感染症についての的確な知識や技能を学ぶ	
	感染症各論	代表的な感染症について、病原体、感染源、感染経路、症状、予防対策などを学ぶ	
30	前期テスト		
31～47	消毒法総論	理容業務と消毒との関係を論理的に学ぶ	
	消毒法各論	規則に定められた個々の消毒法に関する正確な知識を学ぶ	
	消毒法実習	消毒薬の正確な希釈技術を学ぶ	
	衛生管理の実践例	衛生管理要領を具体的な事例を交えて学ぶ	
48～59	総まとめ	衛生管理全般の振り返り授業及び国家試験対策	
60	後期テスト		
到達目標	理容師として必要な衛生における知識の理解を深める		
評価方法	1・定期テスト 90% ②・出席状況 5% 3・学習意欲 5%		
	成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2025	学科・学年	理・2
授業科目	保健	授業方法	講義
開講学期	前期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	仲田 大吾郎	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『保健』 日本理容美容教育センター		
教育目標	国家試験に向けて、皮膚の構造機能について、理解を深める 保健衛生分野の職業である理容師に必要な皮膚の構造について学ぶ		
授業概要	直接触れる機会が多い皮膚の構造から皮膚疾患までを学ぶ 様々な薬剤を使用することから皮膚の状態についても詳しい理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	はじめに	これから学ぶ『皮膚』についての重要性を学ぶ	
	皮膚の構造	皮膚は体内でも最も大きな器官であることを知る	
	皮膚の表面	表皮・真皮・皮下組織の構造を学ぶ	
	皮膚の断面	角化細胞・色素細胞・ランゲルハンス細胞の機能を学ぶ	
5～8	皮膚付属器官の構造	皮膚の構造や皮膚付属器官について学ぶ	
	毛 立毛筋 汗腺	毛の構造・毛の生長周期・毛の変化の理解を深める	
9～12	皮膚の循環	皮膚に十分な栄養を送り老廃物を取り除くリンパの働きを知る	
	皮膚の血管	皮膚血管の分布や働きについて学ぶ	
	皮膚のリンパ管	皮膚リンパはマッサージや、つぼの効果について学ぶ	
13～15	皮膚付属器官の生理機能	皮膚の働きについて理解を深める	
	対外保護作用	機械的外力に対する保護作用、角質層、膠原線維、弾性線維の特徴を理解を深める	
	分泌排泄作用	皮脂の分泌、汗の分泌が体温調節や皮膚の生理作用を理解	
16～19	付属器官の保健	皮膚に付属する器官について学ぶ	
	皮膚と全身状態	体の内部の健康状態に深い影響を受けいろいろな変化を学ぶ	
	皮膚と体内病変	肝臓障害・腎臓炎・胃腸障害等と皮膚の変化を学ぶ	
20～27	付属器官の疾患	原発疹・続発疹の特徴を知る	
	皮膚疾患の原因	アレルギー現象とはなにかを理解する	
	皮膚疾患の治療法	薬物の内服や注射、食事療法などを学ぶ	
	温熱・寒冷による皮膚疾患	熱傷の段階、凍傷、凍瘡の障害具合を学ぶ	
	化膿菌・ウイルス 真菌	細菌や化膿菌、真菌による皮膚疾患を学ぶ	
28～29	まとめ	1年よりの振り返り授業及び国家試験対策	
30	テスト		
到達目標	理容師として必要な皮膚と毛髪や爪などの付属器官などの知識、及び皮膚疾患等の知識を深める		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2025	学科・学年	理・2
授業科目	香粧品化学	授業方法	講義
開講学期	後期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	森澤佐枝・仲田大吾郎	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般・理容業全般(カット・パーマ・ウェーブ・ヘアカラー等)		
テキスト	『香粧品化学』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師に必要な香粧品化学分野の理解を深め理容技術を高め安全に行う国家資格取得のための実力を養う		
授業概要	テキストに沿って、1年次の続きの第3章基礎化粧品、メイクアップ化粧品の順に講義し理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～5	スキンケア製品	皮膚洗浄用化粧品の種類と作用と性質について学ぶ	
		化粧水の種類と機能性を理解する	
		クリームと乳液の種類と機能、皮膚への作用について学ぶ	
		その他の基礎化粧品、美容液やパック剤について学ぶ	
6～9	メイクアップ化粧品	メイクアップ用化粧品の種類と剤形について学ぶ	
		ベースメイクアップ化粧品について学ぶ	
		ポイントメイクアップについて学ぶ	
10～14	ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスカルプケア製品	シャンプー剤、ヘアリンス、ヘアトリートメント剤について理解を深める	
		スタイリング剤の機能と性状等を学ぶ	
15～19	ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスカルプケア製品	パーマ剤の原理と分類、1剤と2剤の成分や使用上の注意を学ぶ	
		ヘアカラー製品の種類と染毛のメカニズム、種類と注意事項を学ぶ	
		育毛剤の種類と機能及び原料、脱毛の原因、養毛剤の原料を学ぶ	
20～21	芳香製品	芳香製品の種類や効用と使用上の注意を学ぶ	
22～23	特殊化粧品	日焼け止め製品、美白用化粧品、制汗・防臭剤、ニキビ化粧品の学ぶ	
24～27	化粧品の理解するための基礎科学	物質の構成と構造、溶解とコロイドの定義について学ぶ	
		水素イオン指数、物質の変化と科学反応、酸化と還元について学ぶ	
28～32	まとめ	1年次からの振り返りと国家試験対策	
30	テスト		
到達目標	理容師として必要な化粧品や薬剤などの種類や成分、または危険性などを理解する		

評価方法	1・学期末テスト(小テスト等の提出物) 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90)・優(89～80)・良(79～70)・可(69～60)・不可(59点以下)の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること

年度	2025	学科・学年	理・2
授業科目	文化論	授業方法	講義
開講学期	後期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	清藤 千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『文化論』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容美容の語義や歴史を学び日本のファッション文化史及び西洋のファッション文化史を学び現代までの変遷を学び理解する		
	礼装における和と洋の違いと文化を学ぶ		
授業概要	「理容」「美容」とは何か		
	価値観や美意識の多様化やニーズの文化と歴史と変遷を学びながら日本と西洋の相違点と融合の理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～21	ファッション文化史・日本	近代（明治・大正・昭和20年まで）	
		現代(1945年～1950年代)の髪型や服装・化粧の変遷を学ぶ	
		現代(1960年代～1970年代)の髪型や服装・化粧の変遷を学ぶ	
		現代(1980年代～1990年代)の髪型や服装・化粧の変遷を学ぶ	
		現代(2000年代～2010年代)の髪型や服装・化粧の変遷を学ぶ	
22～25	礼装の種類	和装と洋装の男女の種類と礼装、準礼装等を学ぶ	
26～29	まとめ	1年次からの振り返り授業及び国家試験対策	
30	テスト		
到達目標	理容師、美容師の歴史や流行等を知り、今後のライフスタイルに生かす		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5%		
	成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2025	学科・学年	理・2
授業科目	運営管理	授業方法	講義
開講学期	後期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	高野 敏彰	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般（カット・パーマ・ヘアカラー等）		
テキスト	『運営管理』 公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師として働いていく上で、また自分の店を持つまでの知識を高め、経営管理や労務管理など経営者と従業員それぞれの立場の理解を深める		
授業概要	接客の仕方から市場における経営戦略、サービスの提供などを理解し経営者の視点での就業		
	規則などの労務管理や自分の働く姿、社会人としての将来設計の理解を図る		
時間外学習	赤字およびアンダーラインを付したフレーズは必ずノートに転記しておき時間外に復習する		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～3	経営とは、経営者とは	経営や経営者について基本的な考え方を学び、経営の要点を学ぶ	
4～7	理容業・美容業の経営について	経営や経営戦略を具体的に理解していく視点から現状を把握していく	
8～10	資金の管理	経営資源の流れを見ることで、経営の状況を判断するための指標となる	
11～13	人という資源	最も貴重で最も管理の難しい経営資源である、人を管理するための取り組み労務管理について学ぶ	
14～16	健康・安全な職場環境の実践	経営者は従業員の健康を守る責任について学ぶ	
17～19	従業員としての視点から	資格を取得して1人の社会人として従業員として果たす責任について学ぶ	
20～23	サービス・デザイン	顧客が望むことをかなえるための取り組み、サービスについて学ぶ	
24～26	マーケティング	積極的に顧客を引き付けていくためにどのような努力をすべきかについて学ぶ	
27～29	サービスにおける人の役割	顧客に望まれるサービスを提供するために果たさなければならない役割について学ぶ	
30	テスト		
到達目標	最大のパートナーであるお客様の信頼を得るための知識や経営者としての知識の理解を深める		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5%		
	成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	国家試験必要と思われる項目について注意を喚起しながら講義を進める		

年度	2025	学科・学年	理・2
授業科目	理容技術理論	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	90時間
授業単位数	3	必修・選択区分	必修
担当者	仲田大吾郎・清藤千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容技術理論』 公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	国家試験に向けて理容技術の理論を学ぶ 理論を理解し効率よい教育方法を行い技術を習得する		
授業概要	技術を習得するには時間がかかるが、理容技術の意義を十分理解すれば技能の習得ができる		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1	はじめに	理容の意義、職業としての理容の役割や衛生に関する知識を身に付ける	
2～5	理容用具	鋏・コーム・ブラシなどの名称や構造を学ぶ バリカン・レザー・アイロンの名称や構造を学ぶ	
6～9	ヘアーデザイン	ヘアデザインの条件を考えヘアスタイルを決めていく スタンダードヘアやデザインヘアの違いなどを学ぶ	
10～14	ヘアカッティング	カッティングに入る前の準備はヘアスタイルを決定することを学ぶ スタンダードヘアの基本原則を理解すること 用具の正しい持ち方と操作方法を身につける	
15～19	ヘアセッティング	ヘアスタイルを作る重要な技術、その技術を習得する 毛髪のクリニック的知識・デザイン感覚を学ぶ 整髪料・ブラシ・ドライヤー・アイロン・薬液処理などのヘアセッティングを勉強する	
20～33	パーマネントセット	正しい理論と技術や感性によってお客様の満足のいく理想のスタイルを作る アイパー・アイロンパーマなどの技術のプロセスを学ぶ	
34～47	まとめ・小テスト	振り返り	
48	前期テスト		
49～56	ヘアトリートメント	毛髪に対する処置や手当を行う技術であることを学ぶ トリートメント剤の選定、効果を引き出す知識を習得する	
57～64	理容マッサージ	理容マッサージはリラクセーション効果を目的とした快感技術であることを理解する 人体の構造である骨格・筋肉・つぼの知識の必要性を理解する	
65～68	スカルプトリートメント	頭皮の保護処置でもあるスカルプトリートメントを正しく理解する スカルプトリートメントの目的、技術を習得する	
69～90	まとめ・テスト	振り返り	
到達目標	理容師としての基礎技術に関する理論技術を身に付ける		
評価方法	1・定期テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2025	学科・学年	理・2
授業科目	理容実習	授業方法	実技
開講学期	前期・後期	年間授業	450時間
授業単位数	15	必修・選択区分	必修
担当者	仲田大吾郎・清藤千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容実習』公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	国家試験にかかる技術を習得・理容室において必要な接客や技能技術の習得 技術への科学的根拠を理解し安全で安心な理容技術者としての育成を図る		
授業概要	理容技術における作業姿勢、用具の知識を学びそれらを使った様々な技術の習得を図る カッティング・ワインディング、パーマメント・ウェービング、ネイル、シャンプー、カラー、 エステティック技術等		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～90	ヘアデザイン	丸刈り・短髪型・ブロース・クラシカルカットなど基礎的技術を学ぶ外来講師によるヘアデザインの実際	
91～130	大会練習	各競技種目練習・タイムトライアル	
131～137	小テスト	カット技術	
138～219	学生大会	学生大会参加及び見学	
220～227	前期テスト		
228～252	シェービングなど	フェイシャルトリートメント（1年次の復習）	
253～414	スタンダードヘア・ヘアセッティング・シェービング・フェイシャルトリートメント	国家試験受験対する総合復習	
413～420	後期テスト	国家試験課題全般	
421～450	国家試験対策	タイムトライアル（試験同様の形態で対策を行う）	
到達目標	国家試験の合格を目標とする		
評価方法	1・技術確認テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下） の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	国家試験に必要と思われる項目について注意を喚起しながら講義を進める		

年度	2025	学科・学年	理・2
授業科目	接遇マナー	授業方法	講義
開講学期	前期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	西峯 由規	実務経験のある教員	○
実務内容	専門学校教員・一般) 日本産業カウンセラー協会産業カウンセラー 一般) 日本産業カウンセラー協会キャリアコンサルタント		
テキスト	株式会社ウィネット 実践ビジネスマナー		
教育目標	社会人としてのビジネスマナーを知ることから実践できるようになるまでを目指す		
授業概要	テキストを基に実際に行動できるような実践形式の講義		
時間外学習	日常生活の中で復習と確認を行う		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	基本動作の復習	立つ姿勢・お辞儀の仕方・椅子の立ち座り・歩き方・表情・発声練習	
	社会人の心構え	仕事に取り組む心構え、指示の受け方と報告の仕方・職場の人間関係	
	入退室	面接における入退室の仕方や注意点を学ぶ	
5～6	入退室	面接における入退室の仕方や注意点を学ぶ	
7～8	電話応対	電話のかけ方	
9～10	電話応対	電話のかけ方	
11～14	電話応対	面接における入退室の仕方や注意点を学ぶ	
	名刺交換	名刺の受け取り方・名刺の出し方・名刺の取り扱い	
15～30	説明会等	就職に係る説明会や各種セミナー	
到達目標	就職活動や入社時に好印象を与える社会人マナーの習得を目指します		
評価方法	1・学期末テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	受講時はビジネススーツを着用する		

年度	2025	学科・学年	理・2
授業科目	総合教養	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	30時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	近藤邦夫・大倉美知子	実務経験のある教員	○
実務内容	銀行員・専門学校校長		
テキスト	開講時に担当教員が指示及び配布する		
教育目標	「自分」と「将来」を見つけるために研究し理解する		
授業概要	確かな基礎知識・技術に加え、考えるための道具＝方法を身に付ける		
	個の可能性を無限に広げ、学ぶ喜びを図る		
	業界や異業種の講師を迎えて講話等を行い、働く意義等の理解を図る		
時間外学習	技術の自己研鑽		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	はじめに	オリエンテーション	
5～7	講話	セミナー	
		就職活動に向けた講話	
8～10	ワークショップ	セミナー	
		先輩理美容師の人生を聞き目指す理美容師像を描く	
11～14	パーソナルカラー	お客様にアドバイスするための「色彩学の基本」	
15～18	混色	お客様にアドバイスするための「色彩学の活用」	
19～22	心理・配色・配色技法	お客様中心のアドバイス	
23～25	色彩と似合う色	検定対策	
26～28	過去問	検定対策	
29～30	検定	2級取得を目指す	
到達目標	理容師に必要な基本的教養・社会人になるための基礎知識の理解を深める		
評価方法	1・作文提出90％　　2・出席状況　5％　　3・学習意欲　5％		
	成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意			

年度	2025	学科・学年	理・2
授業科目	カラーテクニック	授業方法	実習
開講学期	後期	年間授業	90時間
授業単位数	4	必修・選択区分	選択
担当者	横山 哲也	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・ヘアカラー等）		
テキスト	メーカー提供の資料を使用		
教育目標	カラーの塗布が素早く丁寧に仕上がるようにする		
	色彩学を学び、その人に合ったカラーを提案できるようにする		
授業概要	プリントや映像などを使用する。相モデルでカラー塗布の練習をする		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～2	はじめに	準備物の確認やカラーについての理論	
3～7	グレイカラー	グレイカラーの理論・塗布練習	
8～15	ファッションカラー	ファッションカラーの理論・塗布練習	
16～23	毛髪化学	毛の構造、特徴を理解する	
		毛束を使用しての実験（脱色や発色）・グレイカラーとファッションカラーの違い	
24～52	カラー剤の塗布	グレイカラーの理論・ウィッグにて塗布練習	
		ファッションカラーの塗布練習	
		ウィッグにてウィービング等のテクニック説明	
		相モデルにてカラー剤塗布練習	
53～67	実践講習	カラーメーカーによる調剤から塗布までの理論及び実技指導	
68～85	作品制作	履修した技術をもとに作品制作（2作品）・写真撮影	
85～90	まとめ	塗布技術試験・筆記試験	
到達目標	理容師として必要なカラー技術と知識を身に付ける		
評価方法	1. 技術の確認 90% 2. 出席状況 5% 3. 授業態度 5%		
	成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	持参用品の忘れ物のないように		

年度	2025	学科・学年	理・2
授業科目	育毛サロン	授業方法	講義・実習
開講学期	前期	年間授業	90時間
授業単位数	3	必修・選択区分	選択
担当者	森澤佐枝・仲田大吾郎	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般(カット・ヘアカラー等)		
	理容業全般(カット・シェービング・ヘアカラー等)		
テキスト	ヘッドスパ検定公式テキストブック		
教育目標	癒しの技術であるヘッドスパから美と健康に関する技術・製品の研究開発を行い、新たな理容産業の発展と進歩に取り組み、美と癒しを通して人々に幸福と健康を提供できる知識を深める		
授業概要	ヘッドスパに必要な人体生理学や環境に配慮した用品の選択や技術の習得を図る		
時間外学習	技術の自己研鑽		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～7	はじめに	外来講師による講話及び手技デモンストレーション及び実践	
		タオル、クロスのかけ方・ブラシの持ち方・姿勢・手順を学ぶ	
		サイドシャンプー（すすぎ・すすぎ技術の実際）シャワーヘッドの持ち方などを学ぶ	
		適正な首の位置と高さを理解し手順を習得する	
8～28	理論	ヘッドスパに関する基本的理解を深める	
	筆記対策	人体解剖学、人体生理学などを学ぶ	
	3級取得実践	カウンセリングに関する基本的な理解を深める	
		協会の推奨するヘッドスパの価値を理解する	
		相モデルにて実践を行い習得する	
		ヘッドマッサージやカウンセリングを実際に行い理解を深める	
29～35	検定	3級実技検定及び2級実技検定の技術ポイント解説	
36～77	カウンセリング及び2級取得実践	カウンセリングの目的と重要性を学ぶ	
		カウンセリングのツールを学ぶ	
		洗浄剤（シャンプー剤）に必要な根拠の理解を深める	
		ヘッドスパのカウンセリングを理解し応用する	
		ヘッドスパの効果を理解し、基本的なテクニックを習得する	
		1、基本テクニックの習得	
		2、安定した穏やかなリズム	
		3、お客様の頭や体に負担を掛けない技術	
		4、循環器系の流れやリンパ節を理解した技術	
		5、頭部の筋肉を理解し、ほぐす技術	
		6、頭皮や毛髪に負担を掛けない技術	
		ヘッドスパの基本テクニック	
		ほぐす・・・・・・・・皮膚と筋肉をつまむ、挟む等の筋肉に作用させる。	
		ストレッチ・・・・手掌を使い筋肉や腱をのばす方法	
		圧迫法・・・・両手掌や指を使い、肌に密着させながら圧迫する方法	
打法・・・・・・・・手掌、手掌外側面、こぶし、指の先端を使いリズムカルに打つ方法			
シミュレーション			
78～80	2級取得実践	2級実技検定シミュレーション	
81～85	検定	2級実技検定	
86～90	筆記試験	検定筆記試験	
到達目標	基本的なスカルプトリートメントからのヘッドスパ検定2級取得を目標とする		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5%		
	成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2025	学科・学年	美・2
授業科目	エステティックテクニック	授業方法	講義・実習
開講学期	後期	年間授業	90時間
授業単位数	3	必修・選択区分	選択
担当者	清藤 千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『認定フェイシャルエステティシャン・ボディエステティシャン』 一般社団法人 日本エステティック協会		
教育目標	正しい最も難しく大切な技術を習得し最良の技術提供ができるようする		
授業概要	法律、生理解剖学、皮膚科学、化粧品成分、消毒法、栄養学、基本手技などを学びながら『美』・『健康』・『治療』に関心を持たせる		
	健康的な美肌づくりを目標に一つ一つ意味を理解する		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～3	エステティックとは/生命活動とホメオスタシス	本質と領域／法令遵守／生命活動の基本原理などを学ぶ	
4～7	身体のおしぐみと働きⅠ/栄養の知識	「働き」「つくり」を対比させて解剖生理学として学ぶ	
		健康と美容の基礎となる栄養を理解する	
8～11	皮膚のおしぐみと働きⅠ/Ⅱ	スキンケアの方法として「皮膚科学」を学ぶ	
12～15		皮脂膜の役割や表皮のターンオーバー、真皮付属器官などについて深く学ぶ	
16～18	化粧品の種類と働き/衛生と消毒	化粧品の特徴・種類・原料・使用上の注意事項を知る	
19～21		快適なサロン環境に求められる具体的な消毒法や衛生措置について学ぶ	
22～28	エステティックカウンセリングとは/フェイシャルトリートメントの基礎知識	最も基本となる「エステティックカウンセリング」について正しく学ぶ	
		「健康な美肌作り」を目標に1つ1つの手技の意味を理解する	
29～35	フェイシャルトリートメントの基本	トリートメントの基本的な流れを把握し、成り立ちについて理解する	
36～42	フェイシャルトリートメントの組み立て方	お客様の皮膚状態や生活環境、禁忌事項等を確認し技術を組み合わせる	
43～49	カウンセリング	来店目的・皮膚状態の観察・生活習慣や日常の手入れ方法・禁忌事項・施術内容やトリートメント方法の選択	
	クレンジング・スキンチェック	メイクなどの汚れを取り素肌状態にてトラブルなど皮膚状態を確認する	
50～56	フェイシャルマッサージマスク・仕上げ・アフターカウンセリング	体液循環の活性化・筋肉などの衰えの回復・リラクゼーションについて学ぶ	
		マスクは皮膚状態に合わせたタイプを選択し、化粧水や乳液などを塗布し保護する	
		トリートメント内容の説明や効果の実感、ホームケアアドバイスなどを理解し練習する	
57～63	実技試験練習		
64～70	実技試験		
71～77	フェイシャル	外来講師によるサロン技術の実際	
78～84	ボディ	外来講師によるサロン技術の実際	
85～90	脱毛	外来講師によるサロン技術の実際	
到達目標	サロンで実践する基本技術を取得し『認定フェイシャルエステティシャン 初級』取得を目指す		
評価方法	1・筆記及び技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5%		
	成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」を合格とする		
履修上の注意	過去の出題傾向などから必要と思われる項目について注意を喚起しながら講義を進める		